



# 保育内容総論 後半

1. 保育の全体的構造
2. 保育内容の現在
3. 養護と教育
4. 保幼小の円滑な連携

## 幼稚園教育要領 第3節 環境の構成と保育の展開

### 1 環境の構成の意味

#### (2) 幼児の活動に沿って環境を構成する

教師は、幼児が自ら環境に関わり、豊かな体験をしていくことができるように環境を構成するのであるが、その際、教師は、**幼児の活動に沿って環境を構成する**必要がある。このためには、教師は幼児の視点に立って環境の構成を考えなければならない。**一人一人の幼児が今何に関心をもっており、何を実現しようとしているのか、活動に取り組む中で苦勞しているところはあるのか、その困難はその幼児にとって乗り越えられそうなものなのか、あるいはこの後どんなことに興味が広がっていきそうなのかなど、**幼児の内面の動きや活動への取り組み方、その取組の中で育ちつつあるものを理解することが大切である。

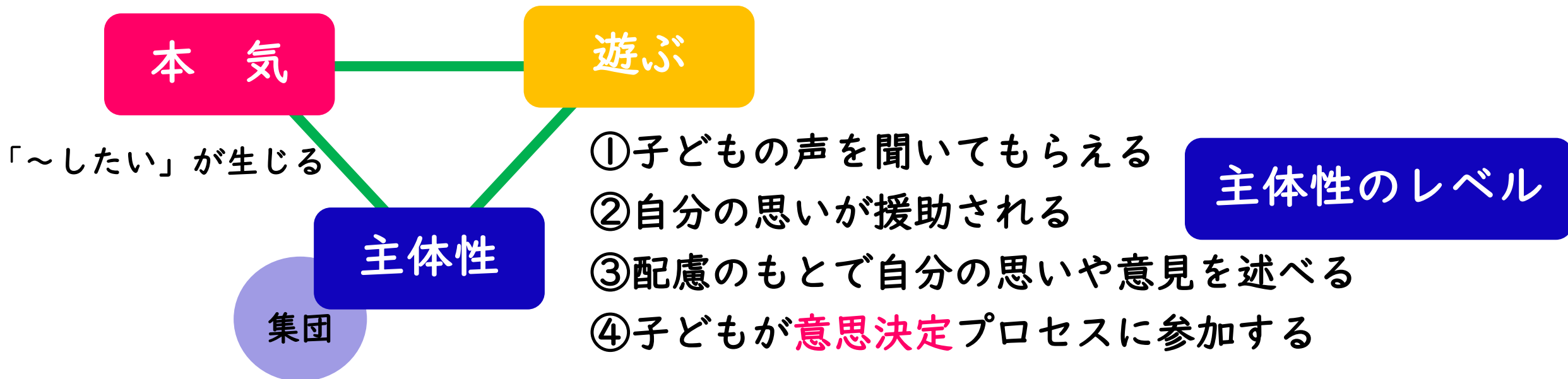
〇〇したい！  
思いが出る  
思いを実現する



# 津守真 「保育者の地平」

人がある行為をするとき、そこには思いが込められている

子どもの内なるテーマを理解する保育者との関係の中で子どもは成長する



# 大きな違いは何か？

↳ 自己決定

しなくてはいけない

行動それ自体は手段  
何かを得たり、  
何かを避ける  
ことが目的

外発的動機付け

したい！

興味・関心に基づき  
行動すること  
それ自体が目的

内発的動機付け

非自己決定的

自己決定的  
(自律性)

外発的動機づけ

内発的動機づけ

やらない

やらないと不安だからやる

〇〇になりたい

面白いからやる

叱られるからやる

重要だからやる

できるようになりたい

取り入れ的調整

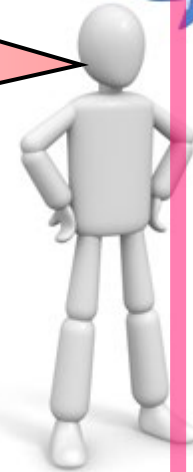
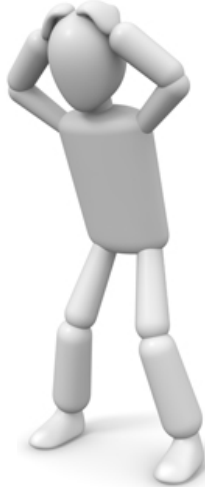
統合的調整

内発的調整

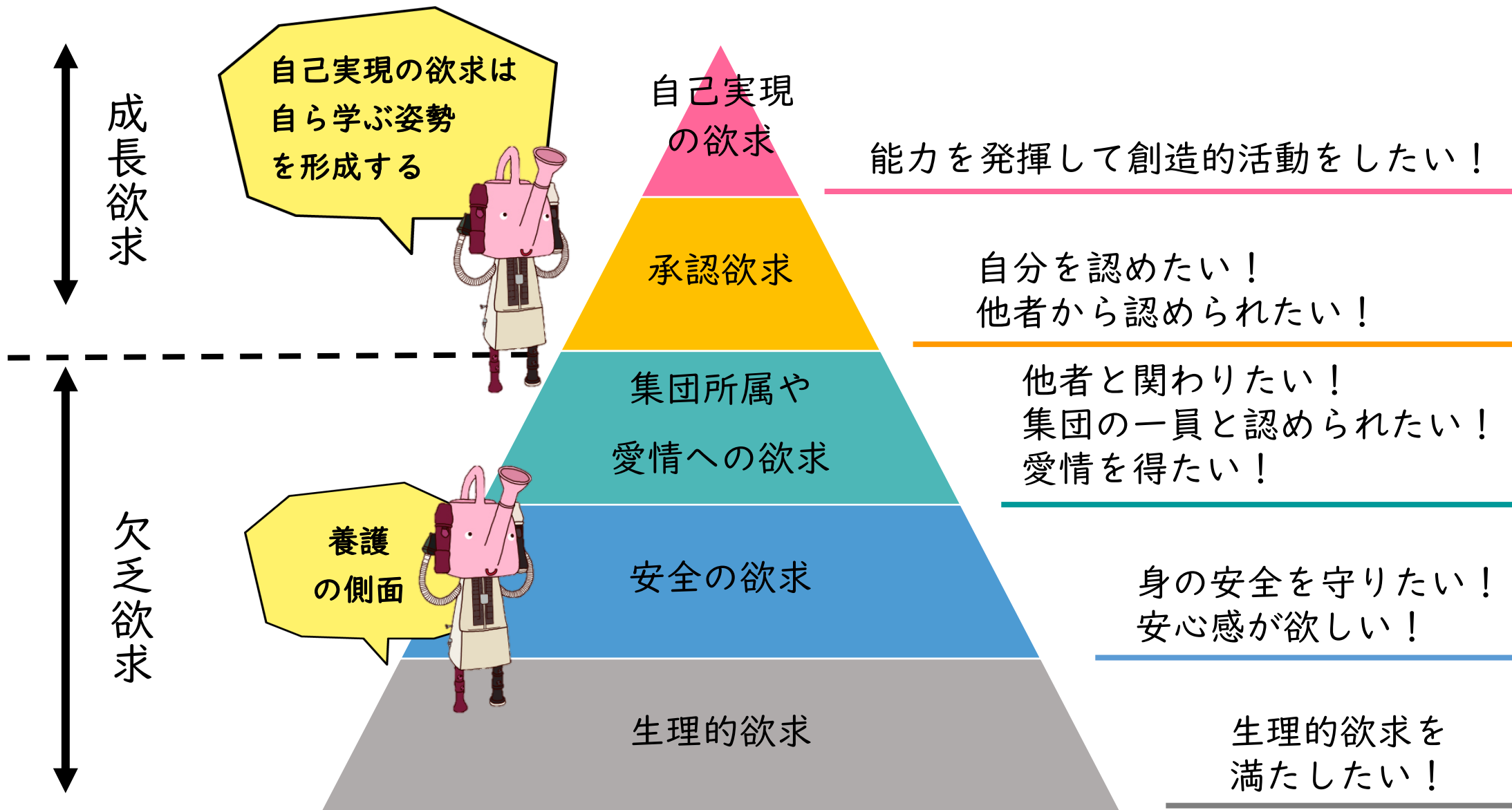
調整なし

同一視的調整

外的調整



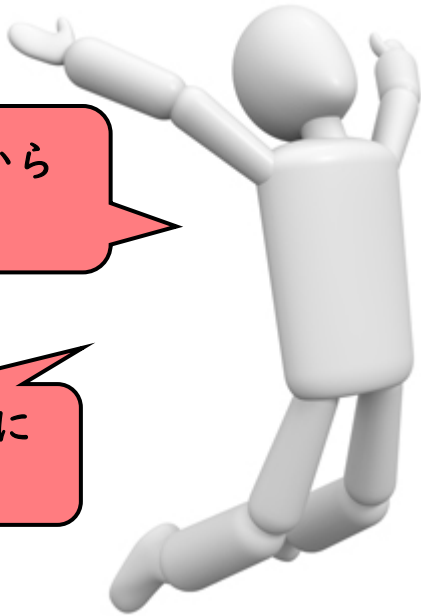
# マズローの欲求5段階説



## 内発的動機づけ

面白いからやる

できるように  
なりたい



## 自己決定性

学習の主体だと  
感じられる  
環境を提供  
決定を援助

## 興味を引き出す

新規性

挑戦性

意外性

複雑性

不確実性

主体性を促す（子どもが決められる）

何をするか

どこまでするか

どのようにするか

どのようにすすめるか

時間配分をどうするか